（様式３）

令和７年度　動物実験等に関する報告

水産大学校

項　　目	報　告　内　容
１　動物実験等の実施状況	
（１）実施件数	当該年度の実験件数の合計　　５件
（２）使用動物種	・ICR マウス、オス ・Balb/cj マウス、メス ・C57BL6/J
（３）関係研究課題数	当該年度の全実験課題数　　８課題
（４）実験課題	課題を順次記載 ①耳介塗布された海藻由来成分によるアレルギー性炎症の抑制効果 ②経口投与された海藻由来成分によるアレルギー性炎症の抑制効果 ③アレルギーモデル動物における海藻由来成分の腸管免疫に対する影響 ④海藻由来成分のストレス緩和作用（予防的な免疫調節作用） ⑤山口県沿岸から採取される褐藻類に含まれる脂溶性抽出物の食用機能性について ⑥山口県沿岸から採取される褐藻類に含まれるポリフェノール「フロロタンニン」の食用機能性及び肝臓蓄積について ⑦クロレラまたはフェネチルアミンの生活習慣病マウスモデルに及ぼす影響 ⑧クロレラまたはフェネチルアミンの投与による血中代謝産物の変化
２　点検・評価結果	
（１）所内規程の制定	水産大学校動物実験委員会細則（令和４年９月８日改正）
（２）動物実験委員会の	○構成 委員長：校務部長

	設置状況・構成	副委員長：臼井准教授（食品科学科） 委　員：水産流通経営学科１名、海洋生産管理学科１名、海洋機械工学科１名、食品科学科２名、生物生産学科１名 （計８名） ○開催実績 第１回：令和７年　４月２２日 第２回：令和７年１１月２１日 第３回：令和８年　３月　３日
	（３）動物実験等の実施状況	令和７年度では、８件の動物実験が計画され、内５件が実施された。 令和７年度に実施されたすべての実験において、適正な方法、設備で実施されており、特段の問題がないことを委員会で点検しており、その旨、水産大学校代表に報告した。
	（４）教育訓練等の実施	令和７年５月に、動物実験参加学生に対する倫理面での教育を目的として、指導教員毎に動物実験講習会を実施した。
	（５）実験動物の飼養等	特段問題なく飼育されていた。
	（６）緊急時の対応	令和７年度動物実験において、緊急時の対応が必要となる事案は発生しなかったが、緊急時に異常が発見された場合は、動物実験委員会委員長（校務部長）に連絡し「水産大学校緊急時連絡体制」に従い、対応することとしている。
	（７）総合評価	国立研究開発法人水産研究・教育機構動物実験規程及び水産大学校動物実験委員会細則に照らし、妥当と評価する。